

第22回ワイルド学会要旨

座談会

『オスカー・ワイルド事典』をめぐって

司会： 佐々木 隆

(武蔵野短期大学専任講師)

日本ワイルド協会が全面協力した『オスカー・ワイルド事典』が10月に無事出版された。会員以外の専門家にも執筆して戴いた結果、世界で初めての「ワイルド事典」が完成した。

まず出版の経緯については山田先生。事典の編集事務局を置き、協会設立から事典の出版までの流れは荒井先生。事典の最終段階である索引の作成については川崎先生。事典の項目については佐藤先生と玉井先生。日本文学関係については石崎先生。そして、実際に事典の編集に専念された北星堂書店の本城さん。パネリストからまず報告があった。パネリスト、あるいはフロアーからは項目として取り上げる必要のあったものがいくつか指摘された。これからの課題である。

海外ではケンブリッジ・ユニヴァーシティ・プレスより *The Companion to Oscar Wilde* が少し遅れて出版された。事典というよりは論文集の形式であるが、ワイルド復活の機運が確かなことを指示するものである。アメリカではカール・ベクソン編の『ワイルド百科事典』が出版されるという情報が荒井先生から紹介された。

文字通り『オスカー・ワイルド事典』は世界最初のものとなった。事典は完成したが、むしろこの事典の項目執筆を担当した若手の研究者（私も含め）にとっては、ワイルド研究の新しい出発点となったと思える。日本におけるワイルド研究史上に残る『オスカー・ワイルド事典』の出版に参加できたことに感謝したい。

第一発言者の軽薄なる話

山田 勝

(日本ワイルド協会会長)

『オスカー・ワイルド事典』ができあがるまでの裏話、ということで、関係した方々が